

From 商学部長

有効な時間管理を

やま だ ひさ かず
商学部長 山田 壽一

「学校は勉強するところ」 高校の倫理の授業で担当教員が教室に入るなり何も言わず直ぐさま黒板に最初に書かれた言葉です。その風景は今でも大変印象深く残っており、今更ながら当然のことなのですが、このようにそれも黒板に大きく書かれると、改めて勉強というものを考えさせられました。哲学者であるフリードリヒ・ニーチェの言葉に「勉強はよく生きることの土台となる。…何の役にも立たなそうに見える今の勉強一つでさえ、自分が人間としてよく生きていくことの土台となっていくと言えるのだ。」(白取春彦編訳「超訳 ニーチェの言葉」)が



あります。大学生活においてとことん勉強し追求してみてください。

ところで、大学を卒業するには必修科目や選択科目等の授業を受け、かつ試験を受けて単位を取らなければならないので、効率よく勉強することが必要になると思います。

ここで改めて単位についてですが、単位認定のための定めがあることは皆さん既にご承知であるかと思いますが、確認のため記載しますと、大学設置基準では次のように定められています。

「第21条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学習を必要とする内容を持って構成することを標準とし、授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。 一、講義および演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業を持って一単位とする。 二、実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業を持って一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については大学が定める時間の授業を持って一単位とすることができる。…」

すなわち1単位は大学での授業を15時間そして授業時間外における学習、いわゆる予習復習の自宅学習を30時間行うことをもって初めて一単位として定められているのです。

ここで、今20単位を履修した場合に、自宅学習はどのくらい必要なのか考えてみましょう。講義科目を20単位履修したと仮定しますと、一単位あたり30時間ですからその20倍の600時間の自宅学習が必要になります。これを15週の間にこなさなければならないわけですから、1週間で40時間、これを1日で計算すると、5.7時間となります。1日24時間の中で、大学で勉強する時間や生活をするための時間を勘案すると、どのようにして自宅学習の時間を作るかが課題となります。クラブ活動やバイトをしたり、時には息抜きもしたいですね。通年科目の場合には、夏休みもありますから、少しは時間的余裕がありますが、半期15週で完了する科目の場合には結構ハードなスケジュールをこなさなければなりません。

いかに、24時間を有効に活用するのか、皆さん一人一人が充実した学生生活が送れるよう有効な時間管理が出来ることを期待します。

初めて本学を知ったのは、私がまだ埼玉県西部の高校の新米教員だった頃でした。教科や部活動を担当していて良く知っていた女子高生が「私、中央学院大学に進学することが決まりました。」と教えてくれました。その時、「えっ！滋賀県に行くのか？」と頓珍漢に聞き返し、「千葉です！」と言われた記憶があります。アビコにある大学と聞いたからです。（大阪にも我孫子がありますが…）印象の良い生徒でしたので、「この生徒が選んだのなら良い大学なのだろう」と単純に想像したものでした。

30代後半に高校の教員を脱サラならぬ「脱公務員」をして、本学へ

の赴任を決意した時も、その根拠の希薄な好印象が、実は重要な要素であったと思われます。高校教師生活の最後に勤務したマンモス進学校は教員も200名以上おり、生徒でも誰が教員で誰が来客か定かでない様な状況でした。職員会議は人数の関係で形骸化し、実質的な審議はできませんでした。私自身も、大きな歯車の一部品のような脱力感を覚えながら勤務していたように思います。

それに比べて“STAND BY YOU”をスローガンとし、学生との距離感の近い本学には充実感があり、赴任前に抱いたイメージに間違いがなかった事が実感できています。中でも、ゼミナールには大学ならではの

の雰囲気があり、コンパ、合宿やOB・OG会といった取り組みによって、学生や卒業生と良い付き合いができています。学生のみならず、職員と教員、また教員同士の距離感が近い点も魅力の一つです。

かの女子高生も主婦となり、数年前に再会しましたが、「良い大学でしょ？」と言われ、素直に私も頷いたものです。なぜなら、本学の良さを信じてこれまで勤務してきたからに他なりません。第19代商学部長の大役には甚だ力不足で、多方面にご迷惑をおかけしましたが、周囲の皆様は何度も助けて頂きました。50周年の節目を迎え、今後も千葉アビコにある本学をさらにアピールしたいと考えております。



高橋律ゼミ15期生との集合写真



皆さん、「クローズアップ現代+」というNHKの番組があるのをご存じでしょうか。毎週月曜日から木曜日の夜に放送されています。我々にとって身近な問題を紹介し、取材を通じて問題の本質に迫ろうとする番組です。最近の番組（2017年1月10日～12日）のタイトルをあげてみると「モノ屋敷」

の実家は宝の山」「あなたのペットは大丈夫!?!」「この世界の片隅に」時代を超える平和への祈り」など、実に様々なテーマが扱われていることがわかります。

一見すると様々にみえるテーマなのですが、「商学部で学べること」というキーワードを使ってこれらのテーマを一括りにすることができます。例えば、1月10日の放送は中古品取引市場の話ですし、11日の放送はペット・ビジネスの話です。これらの市場やビジネスにどのよう

な問題があり、その問題に対してどのような対応が望ましいのか。商学部生として考えるべき材料が、私たちの身近なところにあることがわかります。

12日のテーマについてはどうでしょうか。商学部とはあまり関係がないように思われるかもしれませんが、このテーマが複数の切り口を簡単に思いつくことができ、商学部的には一番面白いと思います。例えば、この映画から現代のビジネスの一端を知ることができます。また、情報（SNS）が企業や消費者の行動にどのような影響を与え合うのか、もちろん平和についても商学という学問を通じて考えることが可能なのです。国と国との間に壁があつたら取引（商）が始まりません。

このように考えると商学は実に身近で幅の広いテーマを扱う分野であることがわかると思います。ただし、実際の問題を考える際には材料を料理するための道具を準備し、道具の使い方を知っておかなければなりません。具体的には経営学、経済学、統計学などが商学の基礎になる科目です。しっかりと基礎を身につけて、現実にある様々な問題にトライしてみてください。

～今年度から、「特色ある教育活動への支援制度」が始まりました。
今年度は、葉山先生の「特色ある教育活動」への取り組みについて
ご報告いただきます。～

社会人になる際に企業から最も求められる力はコミュニケーション能力だと言われています。ではコミュニケーション能力の中で、特にビジネスシーンで必要となるのは何でしょう？なかなか難しい問題です。答えは一つではありません。私はオープンマインド（開かれた心）を持つことだと考えています。



インプロゲームの風景 © impro works

オープンマインドをもつ人は、予期せぬ相手からの問いかけに柔軟に応じたり、相手のアイデアを受け入れることができます。自分のアイデアを言うこともできるのでお互いのアイデアを生かしながら前向きで発展的なコミュニケーションが可能になります。大学生の皆さんにとってもディスカッションや就職活動での面接などオープンマインドが必要な時は多々あります。こうした力は日常生活ではなかなか伸ばせませんので、苦手意識を持っている人も多いかもしれません。

商学部の「特色ある教育活動」として私が行う今回の講座では、オープンマインドを、インプロゲームを通して高めることを目的としています。インプロとは「即興」を意味し、特に、即興劇をする役者さんのトレーニング法を教育に応用したものをインプロゲーム（応用インプロとも）と呼びます。インプロゲームでは言葉を使ったり身体を使ったりしながら、相手のアイデアを受け入れながら自分のアイデアを出す「YES AND」という感覚が身に付きます。

今回の講座では私に加えて、外部講師としてインプロの第一人者である絹川友梨さんをお迎えします。インプロの奥深さを体験しながら、苦手を克服できる一石二鳥な講座です。伝統ある本学で商学の基礎を確実にしながら本講座でオープンマインドを高め、次世代を担うビジネスパーソンを目指しましょう！

私は、幼いころからサッカーの強豪校にあこがれて、ずっとサッカーの練習に明け暮れていました。高校進学時には、すでに鹿児島の実家を出て寮生活を行っており、中・高校時代は、毎日練習に励んでいました。高校3年生の進路決定時には、就職するか進学するか、非常に悩みました。その一方で、九州リーグの強い相手と試合をしていくうちに、サッカーを続けたいと思う気持ちが強くなり、今度はもっと遠く離れた千葉県の大学に進学することになりました。

本学に入学してからすぐに大きな怪我をしてしまい、1年間リハビリ生活を余儀なくされましたが、徐々に怪我也治り、本格的に練習を再開できるようになりました。また、試合にも出場できるようになり、これまで以上に部活に集中することができるようにもなりました。3年生になると、サッカー部の幹部会に入り、プレーだけでなく、様々な行事の実行委員にもなりました。

一方、勉学については、正直なところ、部活を続けながら、卒業できればいいかなと思って入学しましたが、プロゼミナールで、日隈先生とゼミ仲間に出会い、私をゼミ長に指名してくださったことが大きな転

機となりました。当初は、ゼミ長など私に務まるのかと不安でしたが、先生や仲間のサポートもあり、何とかゼミをまとめることができ、自信もつきました。ゼミを通して、人前に立ったり、自分から積極的に発信することも学びました。2年生のゼミでは、他大学とのゼミ対抗討論大会を行い、優秀賞を獲得できました。部活も勉学も

つながっているんだと感じました。今年度も、昨年度の反省点を踏まえて、業界研究とPPTの作成だけでなく、プレゼンテーション力向上のためのリハーサルも行っています。現在未定ですが、今年も他大学との討論大会を行うつもりで頑張っています。これから、就職活動など忙しくなりますが、部活と勉学との両立を図りながら卒業に向けて頑張っていきます。





今年の年賀状のなかに「碁将棋のソフトが人間に勝った」といって浮かれている人を見ると昔を思い出します」また「プログラミングの必修化も妙な気がします」との一文が添えてあるものがあつた。差出人は大学の先輩でありコンピュータの先輩でもある。ただ「時代遅れなのかもしれませんが」ともあつた。半世紀に渡りコンピュータと向きあつてきたが、現在のコンピュータを取り巻く状況を冷静に指摘された気がする。

同様なことはヒトゲノムの塩基配列の解読完了が宣言された当時にもあつた。それでヒトのすべてが解つたかのような一部の報道や解説に対し、生物学の専門家に「それが何か?」「それでヒトの何が解つたの?」と言われた。ネット上での感情から発せられたツイートに右往左往し、同調圧力によるネット炎上が多発するなか、冷静に時流に流されることなく批判的に物事をみていく必要が益々重要になるのではなからうか。

2016年度 授業評価アンケート集計結果

全体

設問文	全体平均	強く そう思う	やや そう思う	どちら でもない	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	有効 回答数	無効 回答数
1. 授業内容について		5	4	3	2	1		
(1) 授業の内容に興味をもてた。	4.12	39.7%	40.0%	15.0%	3.5%	1.8%	6,572	18
(2) 授業の内容は体系的でよくまとまっていた。	4.17	41.9%	39.2%	14.6%	3.0%	1.4%	6,567	23
(3) 授業の内容は勉強の意欲をかきたてるものが多くあつた。	4.01	37.2%	35.5%	20.5%	4.7%	2.0%	6,554	36
(4) 授業の内容は量的に適切であつた。	4.15	42.9%	36.0%	15.8%	3.9%	1.4%	6,562	28
(5) 授業の内容はシラバスに沿つたものであつた。	4.26	46.1%	36.3%	15.8%	1.1%	0.8%	6,548	42
2. 授業方法について		5	4	3	2	1		
(6) 授業はよく準備されてた。	4.34	52.7%	32.6%	12.0%	1.8%	0.9%	6,550	40
(7) 担当教員の熱意が感じられた。	4.29	50.5%	32.8%	13.4%	2.2%	1.1%	6,564	26
(8) 授業のテンポや進行具合が適切であつた。	4.17	45.3%	34.0%	14.8%	4.2%	1.7%	6,561	29
(9) 担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかつた。	4.23	49.0%	31.8%	14.1%	3.2%	2.0%	6,549	41
(10) 板書の仕方は適切であつた。 (黒板を使用していない場合は「どちらでもない」を選択する事)	3.91	35.1%	28.6%	30.1%	4.2%	2.0%	6,533	57
(11) 映像機器が効果的に使用されてた。 (映像機器を使用していない場合は「どちらでもない」を選択する事)	3.88	35.9%	20.8%	40.0%	1.9%	1.4%	6,472	118
3. あなた自身について		5	4	3	2	1		
(12) この授業によく出席した。	4.37	54.6%	30.9%	11.5%	2.3%	0.6%	6,538	52
(13) この授業には積極的に取り組んだ。	4.18	44.1%	34.5%	17.4%	2.8%	1.2%	6,535	55
(14) この授業のために予習・復習をした。	3.50	26.0%	25.6%	28.9%	10.8%	8.6%	6,536	54
(15) 受講態度はよかつた。	4.14	41.8%	34.7%	19.9%	2.5%	1.1%	6,501	89

全体—体育科目

設問文	全体平均	強く そう思う	やや そう思う	どちら でもない	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	有効 回答数	無効 回答数
1. 体育科目の内容・学習効果について		5	4	3	2	1		
(1) 運動量が十分であつた。	4.63	68.6%	26.7%	3.9%	0.8%	0.0%	360	1
(2) 運動技術が向上した。	4.39	58.7%	24.7%	13.6%	2.8%	0.3%	361	0
(3) 将来自分の健康・体力を保持・増進することに役立った。	4.42	57.9%	28.3%	12.5%	1.1%	0.3%	361	0
(4) 体育の授業は有意義であつた。	4.56	65.9%	26.6%	5.3%	1.7%	0.6%	361	0
2. 体育科目の授業方法について		5	4	3	2	1		
(5) 授業はよく工夫されてた。	4.48	61.1%	28.1%	8.9%	1.1%	0.8%	360	1
(6) 担当教員は学生の体力・技術水準をよく理解してた。	4.53	63.4%	28.5%	6.1%	1.4%	0.6%	361	0
(7) 担当教員の説明は分かりやすかつた。	4.57	66.7%	24.7%	7.5%	0.8%	0.3%	360	1
(8) 説明／運動の時間配分が適切であつた。	4.57	66.9%	25.1%	6.7%	0.6%	0.8%	359	2
(9) 授業開始／終了の時間が守られてた。	4.65	72.5%	21.9%	4.7%	0.0%	0.8%	360	1
3. 担当教員について		5	4	3	2	1		
(10) 声の大きさは明瞭であつた。	4.71	76.2%	19.1%	4.7%	0.0%	0.0%	361	0
(11) 話し方の速度は適当であつた。	4.71	76.2%	19.4%	4.2%	0.0%	0.3%	361	0
(12) 態度・物腰は適当であつた。	4.69	76.0%	18.1%	4.7%	0.8%	0.3%	359	2
4. あなた自身について		5	4	3	2	1		
(13) この授業にはよく出席した。	4.54	67.0%	22.7%	7.8%	1.9%	0.6%	361	0
(14) 積極的に運動に取り組んだ。	4.56	67.0%	24.0%	7.3%	1.7%	0.0%	358	3
(15) パートナーと一緒に盛り上がった。	4.49	64.8%	22.3%	10.9%	1.4%	0.6%	358	3
(16) 受講態度はよかつた。	4.57	66.6%	24.5%	8.1%	0.6%	0.3%	359	2